

XI. 基本方針

1. 土地利用方針

公営墓園建設の場合、長期的視野に立った計画が前提となる。その為、区画数の規模も大きくなり、区画タイプも多様なものが求められる。

制約される緑地率、墓所率を維持しながら適正な墓所区画を確保し、約半世紀の将来にわたり市民の需要に応じられることを基本に、周辺の環境とバランスのとれた土地利用を図る。

本計画地は、シブサラビバウシ川流域に位置し、霊園建設に伴う治水対策が必要である。このため、外周緑地（75m～110m）は、洪水抑制対策として調整池を配置する。計画地東側にシブサラビバウシ川の吐口工があることから、計画地東端に本調整池を配置しなければならない。このため、排水施設は本調整池より順次、西側へと整備しなければならない。したがって、本調整池を整備する計画地東側より順次、西側へ造成を進められるように導入園路、連絡園路、墓所の配置、また、それぞれの核となるセンター施設の配置も、洪水抑制対策である本調整池、排水施設を考慮した土地利用を図る。さらに、調整池を利用した多目的のオープンスペースを整備し、災害防止を図ると同時に、豊かな緑を演出し、市民の憩いの場・レクリエーションの場となりうる墓園環境の創出を目指すものである。

墓参者は、どうしても墓参する墓所の近くに車を停めたいという心理が働き、一団の専用駐車場があっても墓所近くに停めてしまうことから、幹線園路に駐車スペースを設け、墓参者の利便性を図る。また、墓参者の利便性を考慮して、墓所と駐車施設、水汲み施設との動線距離は概ね50m以内になるように土地利用を図る。

2. 施設整備方針

墓参利用にとどまらず、市民の憩いの場・レクリエーションの場として幅広い利用を促進する為、公園的要素である修景広場、利用緑地等を積極的に導入する。

- 1) . グリッド状の規則的な配置形態を採用することで、墓所区画数の効率的な確保を図る。
- 2) . 墓所形態は、自由墓所と規制墓所の2タイプで（規制墓所は4㎡、6㎡、8㎡、自由墓所は4㎡、6㎡、8㎡、12㎡、16㎡）区画規模は4㎡、6㎡、8㎡、12㎡、16㎡の5タイプを設定する。

規 格	4㎡	6㎡	8㎡	12㎡	16㎡	計
区画数	2,105	3,933	2,569	493	400	9,500
墓所形態	規制墓所 自由墓所	規制墓所 自由墓所	規制墓所 自由墓所	自由墓所	自由墓所	

- 3) . 墓域を囲む形で走る外周園路(W=9.0m)と、墓域を分断する形で南北に走る連絡園路(W=9.0m)により明確なブロック分けを行い、ブロック毎の独立性を図ることで、墓参者の利便性、管理運営の効率性の向上を図る。
- 4) . 導入園路は敷地南側に接する道道帯広新得線から3ヶ所接続導入させ外周園路に接続し、墓参者を墓域内へと導く。
- 5) . 外周園路は導入園路と接続し、墓域外周を一周できる園路として墓参者を墓所に導く。また車道の左右両側に駐車帯(W=2.0m)を設置する。（墓参者の駐車場として提供する。）
- 6) . 連絡園路は墓域外周を一周する外園路の北側と南側を連絡させ墓参者をさらに内側墓所へと導く。また、車道の左右両側には駐車帯(W=2.0m)を設置する。（墓参者の駐車場として提供する。）
- 7) . 外周園路、連絡園路に設置する駐車帯は、園路の機能を阻害しないよう駐車台数を最大限確保する。
- 8) . 管理スペース・休憩スペース・レクリエーションスペース等の付帯施設の充実を図る。
- 9) . 樹木・草花を適正に配置し、公園的なムードの強い墓園を創出する。

3. 比較案の検討

検討案を作成し、墓園建設計画における土地利用等の基本的な方向性を検討する。

前提条件

- ・ 墓所区画数の確保。
- ・ 緑地を多く取り入れる。
- ・ 建設年次計画を考慮する。
- ・ 墓域の外周部は幅 75～110m の緑地を確保する。
- ・ 駐車場は設けず、車道に付帯する形で駐車帯を設ける。
- ・ 駐車帯、水汲み場と墓所との距離は、概ね 50m以内とする。

検討内容

A案……墓所区画数 9,500 区画

- ・ 墓参者の利便性・利用性を重視し、各墓所から 50m以内に駐車帯及び水汲み場等が配置できるように計画し、各墓所区まで車動線を導入する。

B案……墓所区画数 9,000 区画

- ・ 画一的な景観を避け、配置形態に変化を持たせるが、その結果、土地利用効率は低下する。また、各墓域の独立性は高いが車の動線上は使いにくく、駐車場の確保は減少する。

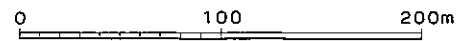
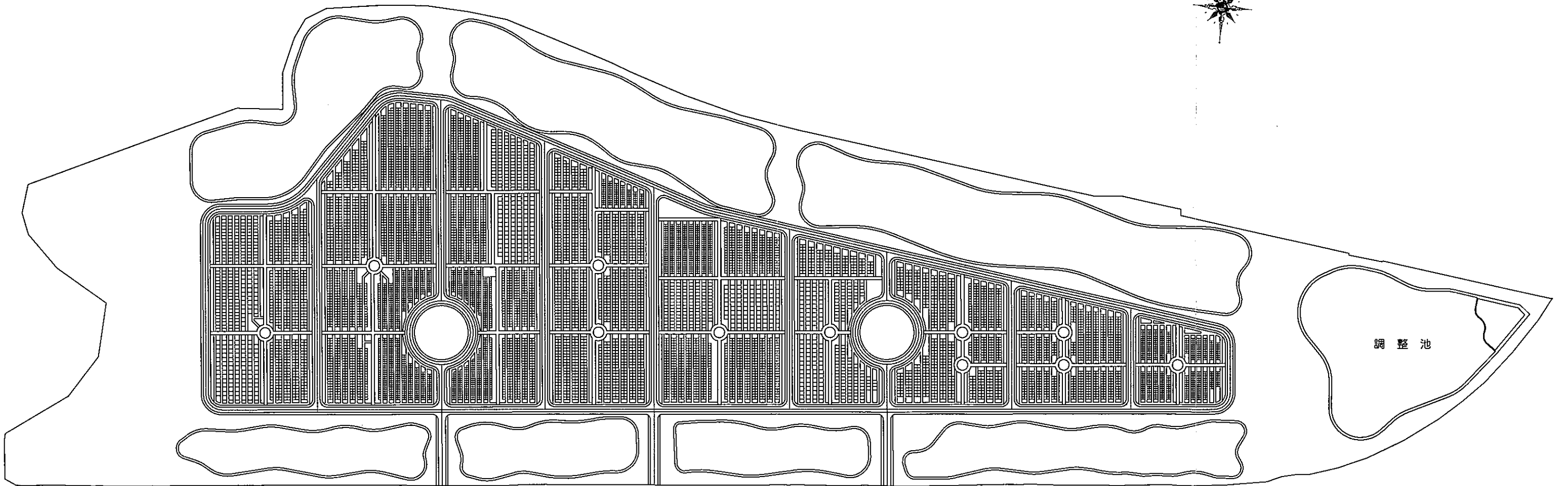
C案……墓所区画数 8,800 区画

- ・ 車動線を集約し、快適な歩行空間の確保に努めるが、墓参時における車の渋滞、水汲み場での混雑などが予想され、利便性の確保が難しい。

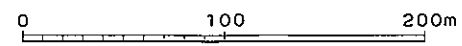
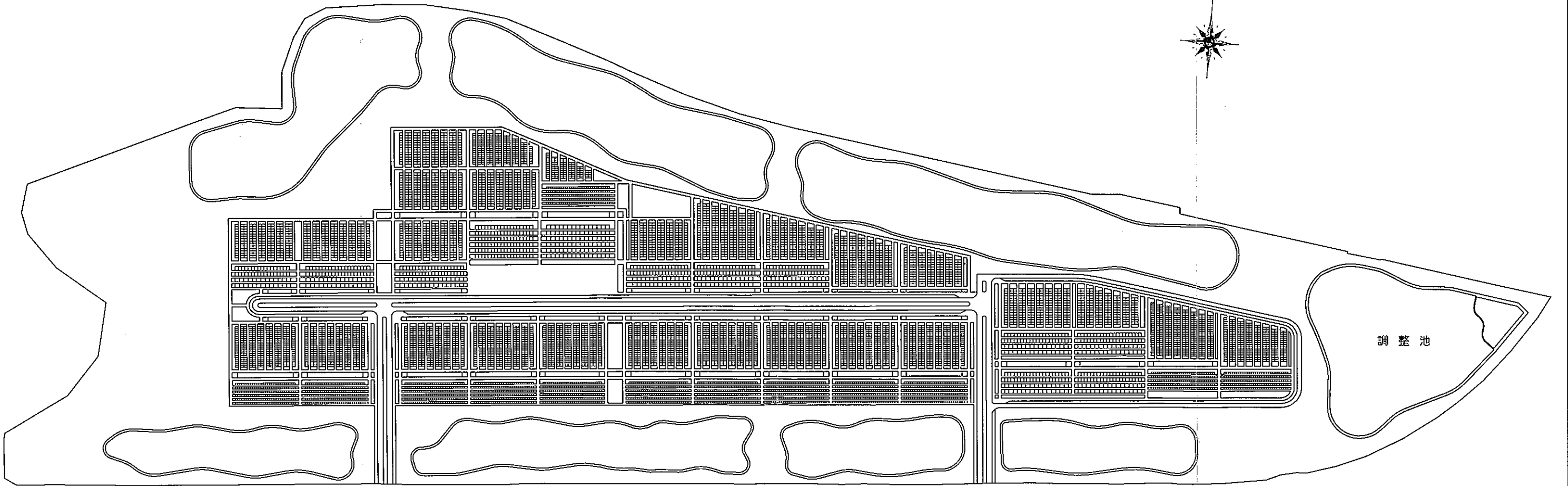
評価

B・C案は、広がりのある緑の形成が可能であるが、土地利用的に墓所区画数の確保が難しい。A案は、緑の規模は若干小さくなるが、墓所区画数の確保など、土地利用的にバランスのとれた配置が可能である。安全な歩行空間の確保、外周緑地との一体となった緑地空間の形成という意味では、墓参者の利便性、効率的な土地利用を考える時、A案を基本案とし、計画を進めることが最も適切である。

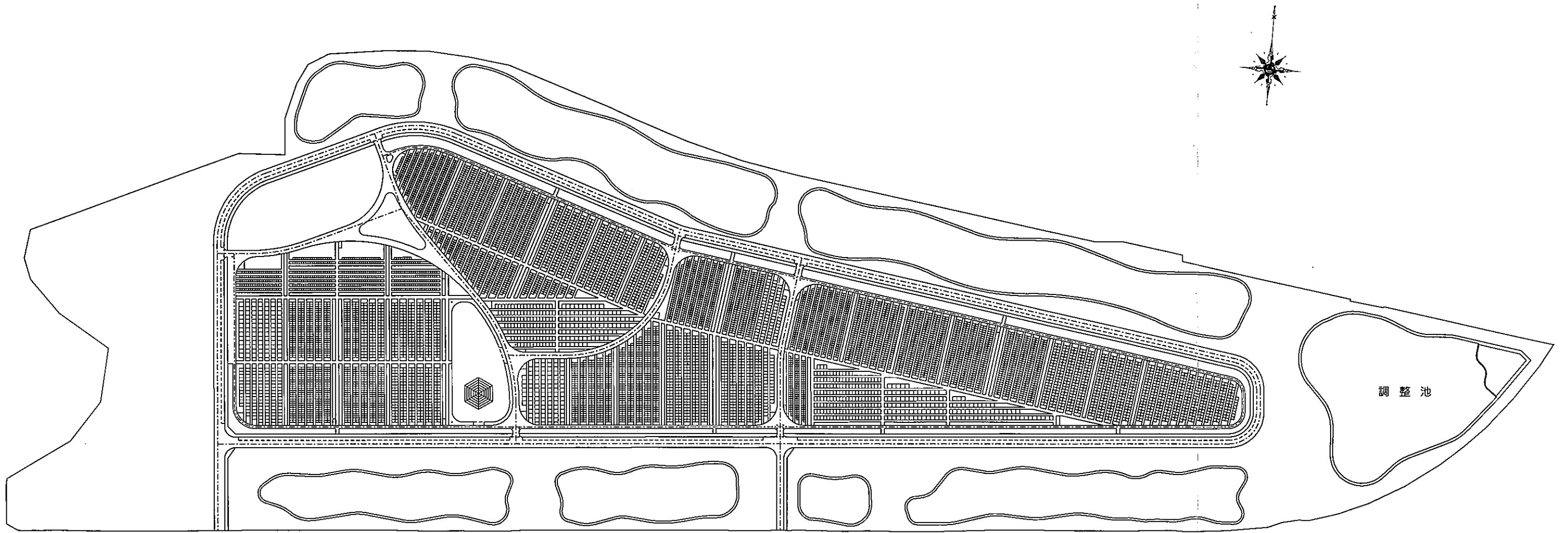
Aプラン



Bプラン



Cプラン



0 100 200m